

令和 7 (2025) 年度

事業報告書

自 ; 令和 7 年 (2025 年) 3 月 1 日

至 ; 令和 8 年 (2026 年) 2 月 28 日

公益財団法人

日本高等学校野球連盟

1. 高等学校野球の普及、振興、指導及び監督

- (1) 年度内に評議員会を1回、理事会を7回、それぞれ開催して案件の審議、決定を行いました。また業務運営委員会を年9回開催（8、10、12月を除く）して当面の諸案件について協議、連盟運営の円滑化を図りました。
- (2) 年度内に各種委員会（総務、財務、審判規則、選手権大会運営、選抜大会運営、軟式部、技術・振興）を必要に応じて随時開催し、諸問題の検討を行い、高等学校野球の健全な育成、発達に努めました。また、審議委員会を開催し(全体委員会を年8回、小委員会を週1回計48回)、不祥事件に対する指導を行うとともに、不祥事件発生防止の重点目標を5項目（指導者の暴力(体罰)行為、暴言、不適切な発言の根絶、部員の暴力・いじめ行為の根絶、インターネットを利用した誹謗中傷、迷惑行為などの防止、部活動引退後の3年生部員への指導の徹底、アウトオブシーズン中の指導の徹底）を挙げて、諸会議や通達で指導徹底を行いました。さらに「高校野球200年構想」推進委員会を3回開催し、「基盤作り、普及、振興、けが予防、育成（審判・指導者・栄養学）」を柱として、高校野球の未来について協議しました。
- (3) 年度内に各都道府県高等学校野球連盟会長会議を1回、同理事長会議を5回それぞれ開催し、昨年同様に加盟団体との連絡と、7イニング制等高校野球の諸課題検討会議から提出された最終報告書などの諸案件について協議しました。
- (4) 本年度も『大会参加者資格規程』を定め、各都道府県連盟に通達し、加盟校への指導を要請しました。
- (5) 各種表彰(日本学生野球協会優秀選手表彰、育成功労賞表彰)を行いました。
- (6) 高等学校野球の普及、振興のため、部員不足による連合チームの大会参加を本年度も認めることとしました。
- (7) 2024年3月に当連盟のホームページをリニューアルし、その後は定期的に当連盟の事業や取り組み、理事インタビューを掲載するなどして情報発信の充実に努めており、これを今後も継続していきます。また、2025年1月に公式X（旧Twitter）アカウントを開設した。SNSを通じて主にホームページに掲載している情報を積極的に発信し、当連盟の理念や活動についての情報発信をさらに強化することを目指していきます。開設後、1年を経過して閲覧者数が少ない傾向がある10代の閲覧者増加へ向けて表現をわかりやすくすることや新たな企画、施策を目指します。

2. 高等学校野球大会その他の試合の開催及び協力

(1) 第97回選抜高等学校野球大会

毎日新聞社と共催で令和7年3月18日(火)から3月30日(日)までの13日間

(休養日 2 日<27、29日>)、阪神甲子園球場で開催、令和 7 年 1 月 24 日(金)に開かれた選考委員会で選考された 32 校が参加、無事盛況のうちに終了し、横浜高等学校(神奈川)が 19 年ぶり 4 回目の優勝を果たしました。準優勝は智辯和歌山高等学校(和歌山)。

(2) 第107回全国高等学校野球選手権大会

朝日新聞社と共催で令和 7 年 8 月 5 日(火)から 23 日(土)までの 19 日間(雨天順延 1 日<10 日>、休養日 3 日<18、20、22 日>)、阪神甲子園球場で 49 校が出場して開催した。沖縄尚学高等学校(沖縄)が初優勝を果たしました。準優勝は日本大学第三高等学校(西東京)。

今大会より代表校宿泊補助費を 8,000 円(1 人 1 泊)から 10,000 円に増額しました。また、暑さ対策の一環として、今大会は初めて開会式と開幕試合を夕方に実施するとともに、試合を午前と夕方に分けて実施する「二部制」の日数を前回大会より拡大して行った。

(3) 第70回全国高等学校軟式野球選手権大会

全日本軟式野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社の後援を得て、令和 7 年 8 月 24 日(日)から 29 日(金)までの 6 日間(休養日 1 日<27 日>)、兵庫県の明石トーカロ球場とウインク球場(姫路球場)の 2 球場で開催しました。参加校は全国 16 地区から各 1 校ずつ計 16 校。中京高等学校(東海・岐阜)が 4 年連続 14 回目の優勝を果たしました。準優勝はあべの翔学高等学校(大阪)。

今大会より代表校宿泊補助費を 8,000 円(1 人 1 泊)から 9,000 円に増額しました。

(4) 国民スポーツ大会・高等学校野球競技

佐賀県で硬式の部、軟式の部ともに令和 7 年 9 月 29 日(月)から 10 月 2 日(水)までの 4 日間(休養日 1 日<10 月 1 日>)で下記の通りそれぞれ開催しました。

硬式の部は、マイネットスタジアム皇子山で 8 校が参加、山梨学院高等学校(山梨)が初の 1 位となりました。2 位は高川学園高等学校(山口)。

軟式の部は、甲賀市民スタジアムと高島市今津総合運動公園今津スタジアムで 8 校が参加、中京高等学校(岐阜)が 2 年連続 10 回目の 1 位となりました。2 位は広陵高等学校(広島)。

(5) 第56回明治神宮野球大会・高等学校の部

令和 7 年 11 月 14 日(金)から 19 日(水)までの 6 日間(休養日 1 日<18 日>)、明治神宮野球場で開催。高等学校の部は、秋季地区大会の優勝校 10 校が参加し、九州国際大学付属高等学校(九州・福岡)が初優勝を果たしました。準優勝は神戸国際大学附属高等学校(近畿・兵庫)。

(6) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道(札幌)、東北(山形)、関東(茨城)、北信越(新潟)、東海(三重)、近畿(奈良)、中国(岡山)、四国(香川)、九州(長崎)の全国 9 地区で令和 7 年 4 月下旬から 6 月上旬にかけて開催しまし

た。

(7) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道(札幌)、東北(岩手)、関東(山梨)、東京、北信越(富山)、東海(愛知)、近畿(奈良)、中国(山口)、四国(愛媛)、九州(宮崎)の全国10地区で令和7年10月上旬から11月上旬にかけて開催しました。

3. 高等学校野球に関する調査及び研究

(1) 加盟校数、部員数調査

令和7年5月末現在の硬式、軟式それぞれの加盟校数、部員数調査を今年も実施しました。集計結果は硬式が125,381人(1,650人減)で10年連続の減少、軟式が7,663人(53人減)となりました。また、加盟校数は硬式が昨年から30校減の3,768校、軟式が12校減の369校となりました。

4. 高等学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

(1) 7イニング制等高校野球の諸課題検討会議

部員の健康対策(障害予防・熱中症対策)、教職員の働き方改革、気候変動など、高校野球を取り巻く状況に対応するため、7イニング制や「高校野球7イニング制に関するWG」から指摘された諸課題について「7イニング制等高校野球の諸課題検討会議」で検討しました。

7イニング制等高校野球の諸課題検討会議では、令和7年1月から11月までに計10回(年度内は8回)にわたって議論した結果を最終報告書としてまとめました。

最終報告書の総括としては、7イニング制の採用は、現在、未来にわたり取り組むべき課題を完全に解決する訳ではないが、課題解決ならびに改善を目指すうえで極めて有効であると結論づけました。

ただし、7イニング制採用について様々な懸念や、まだ議論していない課題や検討事項があることを理由に賛成できないとする意見もありました。

また、速やかに全ての公式戦で7イニング制を採用すべきではあるが、現下の状況は加盟校や高校野球を支えるファンらのアンケート結果を見ると、その意図や有効性が十分に伝わっているとは言い難い状況です。

現在加盟校で活動する部員達は、高校野球は9イニング制という前提で入学しており、部員達の心情を考慮すると、全ての公式戦での7イニング制の採用は移行期間を設ける必要があるとの声もあり、全ての公式戦での7イニング制採用は、現在の中学3年生が高校3年生となる令和10(2028)年の第100回記念選抜高等学校野球大会ならびに各都道府県高等学校野球連盟の春季大会から採用することが望ましいとしました。

さらに、令和10(2028)年までに、加盟校や高校野球ファンに対して、7イニング制を採用する意図や有効性について説明を尽くし、広く周知すること

を求めます。

しかしながら、高校野球が直面する差し迫った課題の一つに、年々厳しさを増す全国高等学校野球選手権大会における熱中症対策があり、酷暑への対策は待ったなしの状況である。したがって、全国高等学校野球選手権大会においては、地方大会を含め可及的速やかに7イニング制の採用が望まれるとしました。

この報告を受け、理事会では7イニング制導入の是非について、継続して議論していくこととしました。

5. 高等学校野球に関する講習会・研修会の開催

(1) 新任理事長研修会

令和7年度新たに就任した都道府県連盟理事長・専務理事6人(山梨、長野、新潟、石川、京都、佐賀)を対象に、令和7年5月28日(水)、同29日(木)の2日間、中澤佐伯記念野球会館で研修会を開催しました。

(2) 審判講習会

第65回全国審判講習会を令和7年5月5日(月)、6日(火)の両日開催。実技は阪神甲子園球場、座学は兵庫県立総合体育館で実施。各都道府県から参加した受講者48人(各都府県1人、北海道は2人)を対象にルール研修や実技指導を行いました。

また、北海道をはじめ9地区の地区別審判講習会に講師を派遣、地方審判の技術向上に努めました。

この他、日本高校野球連盟審判委員の技術向上及び人財育成のための指導力向上を目的に審判委員スキルアップ研修会を令和8年2月11日(水)近畿大学で行いました。対象者は第98回選抜高等学校野球大会に委嘱された審判委員。

また、プロとアマとの審判の交流、情報交換を目的に令和8年1月16日(金)に第30回プロアマ合同審判研修会を対面とオンラインを併用して開催しました。日本野球機構審判部から24、アマ(社会人3人、大学6人、高校31人)の合計64人が参加しました。

さらに、少年野球の育成、支援の一環として、当連盟審判規則委員が講師となり、少年野球3団体(ボーイズ、リトルシニア、ヤング)の審判員を対象に令和8年2月7日(土)、8日(日)の2日間、ゼロカーボンスタジアムで実施し、ルール研修や実技指導を行いました。

(3) 指導者育成プログラム「高校野球・甲子園塾」

高校野球のよき指導者となるために、教員在籍10年未満の指導者を対象に2回開催しました〔第1回；令和7年11月28日(金)から30日(日)、第2回；令和7年12月12日(金)から14日(日)のそれぞれ3日間〕。それぞれ30人が参加して、近府県加盟校の協力を得て、グラウンドでの実技研修ならびに兵庫県立総合体育館で座学研修を行いました。

(4) プロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」

日本野球機構、日本プロ野球選手会の協力を得て、1ヵ所で開催しました。
開催結果は次のとおり。

令和7年12月13日(土) 福井県福井市 福井工業大学カールマイヤー
グラウンド、室内練習場、ブルペン

6. 高等学校野球を通じた国際交流及び国際相互理解の推進

年度内に次の国際大会に参加し、野球を通じて諸外国と親善、友好を深めるとともに、相互の競技力向上に努めました。

(1) 第32回WBSC U-18野球ワールドカップ

令和7年9月5日(金)から9月14日(日)までの10日間(休養日1日)、沖縄県的那覇市と糸満市で開催された第32回WBSC U-18野球ワールドカップに高校日本代表チーム(役員8人、選手20人)が出場しました。出場選手は第97回選抜高等学校野球大会と第107回全国高等学校野球選手権大会の参加選手を中心に選考し、同チームを編成しました。なお、U-18日本代表壮行試合が、8月31日(日)に大学日本代表と、9月2日(火)に沖縄県高校選抜と、それぞれ沖縄セルラースタジアム那覇で行われました。

◇最終順位

第1位	アメリカ	第2位	日本
第3位	チャイニーズタイペイ	第4位	韓国

(2) 2025年日台高校野球国際親善試合

2025年日台高校野球国際親善試合は令和7年12月25日(木)から27日(土)まで台湾の新莊球場で行われ、北海道地区選抜は1勝2敗、九州地区選抜は2勝1分という結果となりました。

7. 高等学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 野球各団体との提携

全日本野球協会、日本野球連盟、日本学生野球協会、全日本大学野球連盟と定期的に打ち合わせを開催しました。

(2) 学生野球資格回復に関する協議会

日本学生野球協会と日本野球機構ならびに日本プロ野球選手会が元プロ野球選手の学生野球資格回復について検討する学生野球資格回復に関する協議会に参画しました。

8. 就学前児童、小学生、中学生に対する野球の普及、振興

小学校、中学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

小学校、中学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 高校野球200年構想関連事業

普及、振興、けが予防、育成、基盤作りをテーマに、高校生だけでなく就学前児童、小学生、中学生まで対象を拡げて、各種事業を実施しました。
事業スタートから8年目を迎え、事業内容の充実として図るべく、令和4

年度からスタートした肩ひじ検診拡大事業（小・中学生向けの肩肘検診、小・中学生対象の野球教室、栄養やけが予防の講座の３つをセットした事業）を取り組んでもらいやすいように２つの事業でも実施可能とすることや、新たに各都道府県協議会への運営支援事業設置、令和５年度からスタートした栄養講座の更なる展開などを進めました。

また、令和７（２０２５）年７月に日本野球機構と「キッズファーストアクション」について連携していくことを合意し、加盟校による幼稚園、保育園等での野球あそび活動などを推進しました。事業総支出は８,４１２万円。

以 上